

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1】

授業作り	重 点	学習規律を校内で統一し、端末を効果的に活用した授業を展開する。
環境作り		学習に向かいやすい教室環境を整え、個に応じた学習指導をする。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな・カタカナ・漢字を確実に身に付け、正しく丁寧に書けるようにする。 ・文章で自分の気持ちを伝えられるように書く練習をする。 ・10までの加減の計算方法を確実に身に付け、正確に計算する。計算の仕方を図やブロックを使って表せるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の学習は、デジタルドリルやプリントを活用し、反復練習をし、定着を図る。 ・小テストを通して、定期的に既習事項の定着度を図る。 ・ベーシックタイムを活用し、ことばあつめをして語彙力を高める。 ・デジタルドリルやプリントや計算カードを活用し、計算練習を繰り返し行い、定着を図る。 ・ブロックや図、言葉を用いて自分の考えを表す場面を設定し、それを使って発表するようにしていく。
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名(拗音などを含む)・カタカナ・漢字を正しく書けるようにする。 ・加法・減法の計算の習熟を図り、確実に計算できるようにする。また、かけ算九九は、暗唱できるようにする。 ・自分の考えを話したり、書いたりして人に分かりやすく伝えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリルやプリントを活用し、反復練習させる。 ・小テストを行い、カタカナ・漢字の定着を図る。 ・文章を書いた際に、必ず見直しをさせ、拗音などの確認をさせる。間違いをすぐに直させて、定着を図る。 ・暗唱テストを行い、確実にかけ算九九を唱えられるようにする。 ・自分の考えを書き表す時間をきちんと設け、文例を示したり、図での表現方法を工夫したりするなどの指導をし、身に付けさせていく。 ・週末に日記の宿題を出し、自分の思いや考えを書き表す習慣を付ける。同時に、カタカナ・漢字を正しく使えるようにしていく。

<p>3 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査は、国語・算数ともに、全国平均を上回っている。 ・漢字や句読点など、言語領域に課題がある。 ・文章の読解力は個人差が大きい。 ・算数の学習理解における個人差が大きい。(四則計算や1億までの数の数学的表現や計算等の理解における個人差が顕著になっている。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を正しい筆順で丁寧に書くことができるようにする。 ・既習漢字や句読点を正しく活用することができるようにする。 ・文章の内容を正しく読み取り理解することができるようにする。 ・計算などの基礎学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリルを活用して漢字の練習を行い、小テストなどの反復学習を行う。 ・日記や課題プリントなど書く活動で、既習漢字や句読点の指導を継続して行う。 ・文章の要点を確認し、内容を理解してから課題に取り組む。 ・デジタルドリルを活用して、計算などの基礎学力の定着を図る。 ・四則計算や数の構成等の理解を深めるために、定期的に小テストを行う。
<p>4 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語、算数ともに全国平均を上回っている。 ・自分の考えを論理的に組み立て、文章などで表す力に課題がある。 ・文章理解(読解)は個人差が大きい。 ・直方体などの構成要素の理解に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を添えて自分の意見を伝える力を身に付ける。 ・文章の内容を的確に理解、要約することができる力を身に付ける。 ・立体の特徴について正しく理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各段落の中心文を読み取る取組を行う。(読み取りだけでなく、書き出しを行い、中心文の位置などにも着目させる。) ・小見出しや要旨の書き出しを行う。 ・デジタル教材を活用した個に応じた学習を行う。 ・具体物の操作を取り入れた学習を行う。
<p>5 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・反復が必要な学習(漢字や計算など)の定着に課題がある。(前期を終えてより顕著になった。) ・文章を書くことに課題がある。 ・式と場面を結び付けて考えることが課題である ・作図を正確に行う力を付けることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定着を確認するために、小テストや50問テストを行う。また、作文などで日常的に既習漢字を使うようにする。 ・図や式、数直線などを用いて発表できるようにする。 ・図形の特徴を整理し、正確に作図することのできる力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストや漢字ワークを活用する。 ・ワークや小テストで書く機会を増やしていく。 ・作文を書く機会を増やす。 ・デジタルドリルを活用する。 ・自分の考えを文章化して、発表する機会を増やす。 ・プリントやノートを活用し、作図する機会を確保する。
<p>6 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力定着度調査は、国語・算数ともに、全国の平均を上回っている。 ・自分の考えを伝えることに課題がある。 ・算数の学力定着度は個人差が大きい。 ・全国学力調査の結果は、算数・国語ともに、区の平均を大きく上回っている。しかし、国語では「書くこと」、算数では「割合」の領域が他の領域に比べて正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を設定し、その課題の解決のために探究的に学習する力を身に付ける。 ・自らの考えを伝え、表現できるようにする。 ・漢字や四則計算など、基礎、基本的な学力を全員に身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーや地域の人材を効果的に活用する。 ・ペア・グループ学習を多設定し、自らの考えを伝える機会を確保する。 ・プリント学習に加え、デジタルドリルを活用し、これまでに既習した内容も復習するなど、個に応じた学習を進める。また、必要に応じて放課後補習なども実施する。 ・週末の宿題等で日記を出すなどし、自らの考えを少しずつ表現できるようにしていく。 ・算数の学習では、図や数直線などを使って立式する練習を積み重ねていく。

特別支援		<ul style="list-style-type: none">・まなびの教室利用児童の実態を的確に把握し、タブレット端末などを効果的に活用しながら特性に応じた指導を行う。・在籍学級での合理的配慮と指導の方針を各学級担任とともに設定する。	<ul style="list-style-type: none">・読み書きの流暢性や速さを把握するアセスメントツールを活用し、児童の実態に沿った指導を計画・実施する。また、GIGA端末を活用したビジョントレーニングなども計画・提案していく。・在籍担任と常に情報交換を行い、指導の方針を見直していく。
------	--	--	--